



令和5年度 学校便り

藍志(あいし) 第11号

令和6年(2024年)1月24日

発行者: 藍住中学校 西山伸二

第3学期始業式式辞よりー「自立」は「支え合い」ー

式辞の前に、1月1日の 能登半島地震でなくなった方々のご冥福をお祈りすると共に、被災され、今なお続く厳しい避難所生活を強いられている方々が一日も早く元の生活に戻れることを願っています。また同時に、南海トラフへの備えの必要性を改めて強く感じます。

新年が明けました。元旦というのは不思議なもので、何か新しい気持ちにさせてくれます。「1年の計は元旦にあり」と言われますが、自分自身の目標を新たに持つことで1年間の進む方向性が決まると言うことだと思います。みなさんは何か新しい目標を心に持ちましたか。

さて、3学期は、3年生のみなさんにとっては義務教育の総まとめとして、また高校入試や進路決定に向けての人生の大きな選択の岐路となります。2年生のみなさんは、最高学年として、自分たちがこの藍中を引っ張っていくための準備に、1年生のみなさんは小学校から入学してくる新入生にとってよき先輩となるための準備の学期です。「終わりは新たな始まりでもある」と考え、有終の美を飾ることのできる3学期にしてほしいと思います。

今、世界では近年で類を見ないほど紛争や環境問題が大きくなり、私たちの生活にも直接、関わってくるようなことも起きてきています。このような中であって、人生において起こる様々な問題を自分自身で引き受ける強さが必要になってきます。そこで、三年生の国語の教科書に載っている哲学者 鷲田清一さんの「誰かの代わりに」の中の言葉を紹介します。「強さとは自分で立つという『自立』であるが、『独立』ではなく、相互に依存する支え合いと捉える必要がある。困難を一人で抱え込まないでいられること、と言い換えることができる。『支え合い』の中で、自分もまた時と事情に応じて、支える側に回る『誰かの代わりに』という意識をそれぞれが持つことが安心感のある社会の基本となる。他の人たちと関わり合い、弱さを補い合うからこそ、人は倒れずにいられる。そして、自分が存在することの意味を感じながら生きることができるのである。」

3学期学級役員任命式ーファーストペンギンー

第3学期の学級役員任命式が SL タイムに行われました。きりっとした空気が感じられ、総まとめとしての3学期に向かう意気込みが伝わってきました。学級役員の方々には、「ファーストペンギン」として、気がついたことやよいと思うことについて、自分から行動することの大切さを伝えさせていただきました。多くの人たちが「こうしたらいい」と思うことでも、集団が大きくなればなるほど、なかなか行動に移すことは難しいものです。みんな、誰かが行動を起こすことを待っているのです。それなら、自分が行動を起こして周りを巻き込んでいけば、大きなうねりとなって集団や社会を変えていくことができるのではないのでしょうか。そんな体験を是非、この藍中でチャレンジしてみてください。



朝のあいさつ運動ー19年目の継続ー

生徒会メンバーによる朝のあいさつ運動が始まりました。みなさんが気持ちの良い一日のスタートができるように、という願いを込めた挨拶を心がけています。一緒にいてくださっているスクールサポーターの河野学さんは、毎朝夕と校門に立ち続けて全校生徒を迎え入れ送り出し、声かけをしてくださって 19 年目を迎えています。「何でも、とにかく続けることが大事なんよ。」と穏やかに話される姿から、こよなく藍中を愛し、私たちを見守ってくださる温かい気持ちが伝わってきます。

